

ローテクの最先端は 実はハイテクよりずっとすごいんです。

赤池学 著 株式会社ウェッジ発行

私たちの住む日本は、資源が乏しいと言われますが、実は戦後の復興で培ってきた「ものづくり技術とその職人たち」という素晴らしい資源を持っています。近年、海外の工場で生産されるようになった製品も、これら日本の技術が元になっているものが少なくありません。

世間には、ハイテクという言葉に対してローテクという言葉がありますね。

でも、一般的には、ハイテクという言葉だけが脚光を浴びているようです。

昭和 39 年（1964 年）に営業運転を開始した日本の新幹線の先頭車両にある部分を、「おでこ」と呼ぶそうですが、その「おでこ」は、熟練技能者が「打ち出し」という方法（手作業）により作られていることを皆さん知っていますか？しかも、この「おでこ」の生産は、現在の E5 系や E6 系などで今後も製作が行われるそうです。¹⁾

本題に戻りますが、この本には、ロケット用の精密部品の加工など具体的事例をもとに企業が取り組むものづくりについて書かれています。

そこには、いわゆるハイテク技術だけではなく、以前からある技術の重要性が紹介されています。また、技術の開発伝承のための 12 の具体策が書かれています。幾つか紹介すると、

- ・ 中小企業は「下請会社」ではなく「協力会社」の位置づけの明確化を
- ・ 社内でのモノづくり学校・教室・学会の開校を
- ・ 高度熟練技能者・技術者の処遇は管理職並みに

など多くを提言されています。

最後に、皆さんはレポートを書く際に何で調べますか。手軽で便利なインターネットを使う人が多いと思いますが、サイトによっては、信頼できるものとそうではないものがあります。

旭川高専には沢山の専門書を有する図書館があります。そんな図書館を大いに利用して本（活字）を読む習慣を身に付けてください。

参考文献

¹⁾ J-NET21 ものづくりの森 技能の森『新幹線の顔は匠の手づくり』より